

## 第5回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「車いす使用者の部」

4月29日（祝・金）、好天に恵まれ、毎年29日は恒例となった車いす使用者の大会が、ユニバー記念競技場・補助競技場で開催されました。ひょうご障害者スポーツ指導員（以下、指導員という）は、21名の方が召集・誘導、競技審判ほかの役割を担って、大会運営をスムーズにサポートされています。大会参加選手は136名、役員等は133名の合計269名が集っています。

開会式の場内アナウンスと共に、車いすを自力で操作できる人、ヘルパーと一緒に参加の人、オレンジ色のジャンパーを着た指導員も整列準備を始めています。

競技種目は、50m、100m、200m、800m、1500m、スラローム、砲丸投、ソフトボール投、ジャベリックスロー、ビーンバッグ投、フライングディスクとオープン競技種目の5000mです。



写真1 ビーンバック投げ

啓明学院高等学校陸上競技部員、神戸親和女子大学、神戸国際大学などのサポートもあり、大会運営が以前に比べてスムーズに行われていた感があります。写真1は、女子部員が選手にビーンバッグをやさしい笑顔で手渡している様子ですが、選手もニコリとしていつも以上に良い結果が出たのではないかと思います。

写真2は、ソフトボール投の召集・誘導の準備をしている指導員の様子です。47名の参加者に対してテキパキと対応されていました。

写真3は、1500mの部のスタート前の様子です。指導員・神戸地区のN選手（一番手前）が選手として参加され、自己記録更新を目指しておられました。私も、啓明陸上部のサポートと共に、この競技の召集・誘導の役割を担当しました。

他にも、丹波市のT指導員など選手参加されている方が何人かおられ、それぞれの自己ベストを目指して奮闘しておられました。



写真2 召集・誘導の様子



写真3 1500m スタート前

大会が年度当初の4月に開催されるため、兵庫県障害者スポーツ協会、神戸市障害者スポーツ振興センター、神戸市陸上競技協会、ひょうご障害者スポーツ指導者協議会の四者がうまく連携し、さらに経験豊富なひょうご障害者スポーツ指導員が運営に貢献できるようになったと感心しています。

受付係では、3月末に発刊された「ひょうごの障がい者スポーツ」ガイドブックを約30名の方々にお渡しし、各種障害者スポーツの概要を知っていただくという取り組みもいたしました。

（報告者：神戸地区・古岡芳弘）